

7月21日（月）

◆五色沼

磐梯山ジオパークについて担当者から説明を受けた。五色沼のひとつである毘沙門沼周辺を実際に歩き、磐梯山の成り立ちや山の動物たちの生態について学んだ。



◆喜多方散策

喜多方市内はテクノアカデミー会津の学生 2 名がガイドした。夏の暑さに汗をかきながら、歴史ある建物や名所を眺め歩いた。



◆大和川酒造

喜多方市の大和川酒造を訪問。日本酒づくりについて説明を受けるとともに、喜多方の蔵文化について理解を深めた。



日本酒づくりの説明



試飲

◆まこと食堂

喜多方を代表するお店であるため、お昼時間を少しずらして訪問した。皆、喜多方ラーメンを楽しみにしていた様子で、大盛ラーメンを注文する研修生もいた。



◆木之本漆器店

小箱やお皿など自分の好きなものを選んで絵を描き、色粉を蒔いた。職人にならないかと誘われた研修生もあり、皆、作品の出来栄えに満足そうだった。





7月22日（火）

◆鶴ヶ城

ボランティアガイドさんの説明（英語）にて城内を視察。会津の歴史に耳を傾け、熱心に質問をしていた。また、会津藩士の出迎えに大喜びだった。



◆福島空港ソーラーパーク

福島県の復興に向けた主要施策の一つである再生可能エネルギー事業の取り組みや施設の概要について、担当者からお話を伺った。



◆県との懇談会

今回の研修のとして県との懇談会を実施。「海外から見た福島、実際に見た福島」と「帰国後における研修の活用」の2つの議題について懇談を行った。



① タダキ ザカリー マサル（ホノルル福島県人会）

- ・今回福島に来る事になって、同僚からはニュースで見た原発の話とか「福島は危ないよ」とか色々言われたのですが、実際に来てみて、食べ物を見たら本当に大丈夫だなと思って、実際食べてみたらハワイの食べ物より美味しかったです。
- ・実際福島に来て福島県民の復興への取り組みを見て、私のルーツが福島にあって本当に良かったと誇りに思いました。そして、皆が前向きに復興に向かって頑張っているなと感じました。
- ・ハワイに帰ったらここで見たもの、報道されていない事を人々に伝えていきたいと思います。また、メディアの情報がいかにここで頑張っている人達を傷つけているのかを自分の周りの人達に伝えていきたいと思います。

② カネヒロ カーリー ミサコ（ホノルル福島県人会）

- ・皆さんと同じように私も来る前に「放射線の問題で癌にならないように気をつけて」とか言われ、そして母親からは福島出身なのに、「福島の人達に政府は真実を教えていないから、どちらを信じて良いかわからない」と忠告を受けました。自分も福島に来た事が無いので、どちらを信じれば良いのかわからなかったのですが、自分の目で確かめたいという気持ちがありました。
- ・実際に来て、直接福島の人のおもてなしや色々な事を経験して、自分がハワイにいた時に聞いた意見と違うなと身をもって感じました。
- ・福島大学では、学生さんによる再生エネルギーやボランティアの話プレゼンテーションしてもらい、こんな事をしているのだと初めて知りました。また桃狩りの時も、農業センターでも、皆が自分で作った物の検査を受けている事、そしてそれを公開している事等とても感動した話もありました。また、除染の話、浜風仮設商店街の話、アクアマリンの話からも、皆さんが頑張っって自分の地域の人達に一日でも早く帰る事が出来るよう希望を与えていて、気持ちが一つになっているという事が解りました。そして今日は太陽光発電を見学し、見た事が無いものだと驚きました。日本では皆協力してやるから、すぐに立ち直ることができるのだと思いました。

③ タジリ アシャリー ユキエ カノエラニ（ホノルル福島県人会）

- ・ハワイではあまりニュースを見ていなかったのですが、風評被害とかあまり分からなかったが、大きな震災が起きて多くの方が亡くなったという事は知っていました。
- ・今回初めて日本に来て、どのような感じなのかイメージがあまり無かったので、初めての日本がとても楽しみでしたが、親戚に「福島に行くんだよ」と伝えたら、「原発事故もあったし行って大丈夫なのか」と放射能にさらされて危険だという事を初めて聞きました。

・福島に来る前は親戚の話を聞いて怖い気持ちもあったのですが、実際来て見て怖い気持ちは無くなりました。福島県民に対して私が持っているイメージですが、つらい時期なのに本当に頑張っているなと感じました。そして、浜風商店街では皆さんが本当に優しくしてくださり福島県民は本当に優しいのだなと思いました。



タダキさん



カネヒロさん



タジリさん

④ ワタナベ デニス シズエ（ホノルル福島県人会）

・今回福島に来たのは2度目です。今年の4月に来た時にはアシャリーさんと同じであまりニュースを見ていなかったため、人との会話で偏見やネガティブな意見が地震のすぐ後にはあったのですが、時間が経つにつれてだんだん少なくなっている事を実感しています。

・今回のツアーは再建、復興にフォーカス（焦点）していたので、皆さんがどのように一つの輪になって努力しているのかを見て、改めて復興は一人だけの努力ではないと思いました。

・叔父の家にホームステイしましたが、叔父は建築をやっていて実際仮設住宅の建築も手伝いました。自分の家族が復興の中で力を注いだ事を知り私は誇りに思います。

⑤ ワタナベ フジ マーシー スミエ（ホノルル福島県人会）

・福島に来る前に聞いた話では、魚や野菜の安全性について疑問に思っている人が多く、政府による報道や情報を信用してはいけないという話がありました。

・私は今回参加している皆さんより年上なのでニュースを見る方ですが、マスコミは負の情報に注目をおいて、復興や福島の現状についての情報が全くアメリカのニュースでは放送されていません。マスコミ自体がそもそもそういうものですが、情報が発信されていないということが現状だと思います。

・福島の復興の特徴の一つは、本当にみんながお互い助け合って復興へ向かって努力しているという事です。

・本当に戻るまでにはあと何十年とかかる作業だと思います。目に見えない所で欠けてしまった物がありますし。要するにインフラとかは見ればわかりますが、社会のあり方とか、人と人の関わりの部分とか、一人一人の心の中とかが元に戻るには随分かかると思いますが、みんなが手を携えて頑張っていますので、ずっと末永く見ていきたいと思います。

⑥ トモナガ キリアン タダシ (ハワイ島福島県人同志会)

・今回初めて日本に来たのですが、この経験はとても素晴らしかったです。来る前は、外国に来る事自体初めてですし、言葉も話せないのもとても不安でしたが、皆さんが自分を温かく迎えてくれた気持ちを感じ、リラックスしても良いのだと思いました。

・福島に対する印象ですが、地震のすぐ後の主流的な意見では凄くネガティブなものが報道され、特に放射線と食べ物の安全性について色々とネガティブな報道がありました。

・色々な情報をハワイで聞いて、来る前には被害の酷さや人々が苦しんでいる姿を見る事になるのかという先入観がありました。実際に福島に来てみたら、復興のプロセスも早いし、皆さんが復興に対して頑張っている姿が衝撃的でした。

・私を含めこのプログラムに参加している皆さんは、日本に来てこのような豊かな自然を見て、美味しい食べ物を食べて、努力している人達を見て感心しました。そして、政府が食べ物の安全性に対して色々な事に取り組んでいるという事が、色々なプロセスを見て改めて分かりました。



デニスさん



マーシーさん



トモナガさん



7月23日（水）

◆帰国

朝、親戚やホームステイでお世話になったご家族のお見送りの中、宿泊先である福島市内のホテルを出発し、成田空港へ向かった。



◆結びに

本研修は平成21年度から始まり、今回で4回目の実施となった（平成23～24年度の東日本大震災の影響により中止）。研修生は母県訪問により自らのルーツを再確認することで本県との絆を感じ、また、復興に向けての取り組みや現状を実際に見ることで、福島についてより理解を深めてもらえたものと思われる。

今回の研修生は皆、家族や友人から福島に行くことを心配されていた。ところが実際に来てみたら想像以上に大丈夫だったと話し、海外には正しい情報が伝わりにくいことを感じた。その中でも、家族は反対したが、前回の研修に参加した兄が福島は大丈夫だと福島行きを強く勧めてくれたことが、今回の参加の後押しとなったという研修生の話は、草の根的な情報発信ではあるが、本研修が海外での風評払拭に確実に繋がっていると強く感じた出来事だった。

祖先の「移住」により、福島から遠く離れた海の向こうで生活を送ることになった研修生とその家族。その心はいつまでもふるさと「福島」を想い続けていることを、過去の歴史も含めて決して忘れることなく、今後も県人会との協力関係を築いていくことが大切だと感じた。